

令和3年度特別支援教育に関する実践研究充実事業
 (その他政策上の課題の改善のための調査研究)
 成果報告書 (概要)

受託団体名
国立大学法人筑波大学

1. 研究のテーマ

「①盲ろう児に対する指導の充実 B盲ろう児に対する指導・支援のポイント」

2. 研究の名称

盲ろう幼児児童生徒に対する指導実践事例の集積と指導・支援に必要な教材・指導法のデータベース化および教員研修システムの開発研究

3. 研究代表者

氏 名	所 属	役 職
雷坂 浩之	筑波大学附属学校教育局	次長

4. 事業の実績

(1) 研究の目的・目標

研究の目的

盲ろう幼児児童生徒に対する指導実践事例を集積し、指導・支援に必要な教材・指導法のデータベースの構築と教育実践の経験のある教員のネットワーク化を目指す。データベースのコンテンツを活用した教員研修システムを開発し、データベースにあげたコンテンツと教員ネットワークを活用し、指導経験の浅い教員を対象とした研修システムを開発し、盲ろう幼児児童生徒に関わる教員の資質の向上を目的とした研修を実施する。

研究の目標

盲ろう幼児児童生徒への教育の充実が急務であることから、研究期間内で以下の事項の早急な実現を図る。

- ・盲ろう幼児児童生徒を担当した経験のある教員等のネットワーク化
- ・盲ろう幼児児童生徒の指導事例の集積
- ・盲ろう幼児児童生徒向けの教材・指導法等のデータベースの構築と公開
- ・教員研修プログラムの開発と提供
- ・研修会の実施 (オンラインによるセミナー形式)
- ・教員向け相談対応窓口の開設
- ・教員の指導力向上実習機関の開設

(2) 研究の内容

1. 筑波大学附属視覚特別支援学校に在籍している盲ろう幼児児童生徒の指導を通して、実践記録を集積するとともに、実態把握、コミュニケーション、指導内容、指導方法、教材教具の活用等について整理した。
2. 集積した教材教具・指導法について、データベース化を進め、筑波大学特別支援教育連携推進グループが中心となって運用している「筑波大学 特別支援教育 教材・指導法データベース」や全国盲ろう教育研究会のホームページで公開した。
3. 筑波大学附属特別支援学校5校の教員及び学内外の研究者、盲ろう関係団体、盲ろう当事者等と連携し、盲ろう幼児児童生徒の教育に必要な教員研修プログラムについて検討、作成した。研修プログラムには、視覚障害及び聴覚障害のほかにも障害を併せ有する盲ろう幼児児童生徒の指導に必要な内容、アメリカのパークINS盲学校等を始めとする海外の教員研修に関する取組も反映させた。
4. オンラインによる研修を始めとして研修を4回開催し、研修プログラムの試行と効果の検証を行った。研修プログラムの中に位置付けた疑似体験については、集合型で実施し、その有効性について検証した。
5. 盲ろう教育に関する相談対応及び教員研修機関としての体制について検討し、筑波大学附属視覚特別支援学校において、整備を進めた。
6. 本委託事業の研究成果を簡潔にまとめたリーフレットを全国の都道府県・政令指定都市教育委員会及び特別支援学校全校に配布し、成果の普及を図るとともに、筑波大学附属学校教育局のホームページで公開した。
7. 本委託事業の報告会をオンラインにて開催し、盲ろう幼児児童の教育実践報告とともに、教材・指導法データベースや研修プログラムについても提示した。

(3) 事業の実施日程

実施時期	実施内容
令和3年6月	Y市立ろう学校校内研修会（オンライン実施）
令和3年8月	第1回盲ろう教育担当者オンライン研修会
令和3年12月	第2回盲ろう教育担当者オンライン研修会
令和4年1月	筑波大学附属視覚特別支援学校校内研修会（疑似体験に限定）
令和4年3月	教材・指導法データベース公開
令和4年3月	研究成果リーフレットの作成
令和4年3月	本委託事業オンライン報告会

(4) 研究の成果

盲ろう幼児児童生徒の指導について、視覚障害及び聴覚障害の状態、発達段階、コミュニケーション等について実態を把握し、課題、指導内容、指導方法、教材教具等について整理し、集積した教材教具・指導法について、データベース化を進め、筑波大学特別支援教育連携推進グループが中心となって運用している「筑波大学 特別支援教育 教材・指導法データベース」に「盲ろう教育」のカテゴリーを新たに作成し、20件程のコンテンツを掲載し、公開した。

教材指導法データベース : <http://www.human.tsukuba.ac.jp/snerc/kdb/index.html>

また、盲ろう幼児児童生徒の教育に必要な教員研修プログラムについて検討、作成を進め、オンラインによる研修を始めとして研修を4回開催（参加者：計210名）し、研修プログラムについてアンケート調査を行い、内容の検証を行った。研修プログラムの中に取り入れた疑似体験については、集合型で実施し、その有効性について検証し、「はじめて盲ろう幼児児童生徒に接する教員向け研修プログラム例」として、以下の内容を提案した。

1. 盲ろうの概要 2. 視覚及び聴覚障害の状態についての把握 3. 疑似体験 4. 障害がもたらす困難性 5. 盲ろうの子どもたちの指導において大切にしたいこと 6. 盲ろうの子どもたちのコミュニケーションについて 7. 指導実践事例の紹介

以上の成果について、「盲ろうの子どもたちの指導の充実を目指して」のリーフレットを作成し、全国の都道府県・政令指定都市教育委員会及び特別支援学校に配布し、成果の普及を図ると共に、筑波大学附属学校教育局のホームページで公開した。また、65名の参加を得て、本委託事業の報告会をオンラインにて開催し、取組内容とその成果を発信した。

(5) 研究の課題と今後の方策

本事業の中で、盲ろう幼児児童生徒の指導等に当たっている教員を対象とした研修を実施してきたが、研修参加者からの「現在、肢体不自由の特別支援学校に勤務しているが、盲ろう児童2名それぞれの実態が違い、どのような指導を行えばいいのか悩む日々で、関わりのヒントがほしい。」「盲ろうの子どもに対して、どのような対応をしたらよいかわからないことが多いので、具体的な指導方法を知りたい。」といった意見に見られるように、盲ろう幼児児童生徒を指導する教員は、実態把握の仕方やコミュニケーションの取り方、指導方法などに困難さを感じていることが再確認できた。そして、研修後のアンケートでは、非常に満足 50%、満足 42.3%、ふつう 7.7%（3回目の研修でのアンケート、回答者数26）の評価を得、「概論からエピソードを含む実践等具体的な内容まで、わかりやすい内容で、日常の指導に生かしていきたい。」「盲ろう児の教育についてポイントが整理された理解しやすい内容だった。」「実際の教材や指導場面を今後も見せていただきたい。」「継続した研修を是非とも開催してほしい。」といったように、提示した研修プログラムについて高評価を得るとともに、継続した研修機会を希望する記載が多く見られた。

以上を踏まえ、教材・指導法データベースにおける「盲ろう教育」に係るコンテンツ件数を増やしていくこと、研修の機会を設定すること、日常的・継続的な相談対応、巡回指導、教育実践交流の機会を設けていくことで、盲ろう幼児児童生徒の教育に携わる教員の資質向上に寄与していきたい。